

千葉西総合病院

歯科口腔外科初期臨床研修プログラム

医療法人徳洲会 千葉西総合病院

2025/4/1

千葉西総合病院歯科口腔外科初期臨床研修プログラム

1 臨床研修プログラムの名称

千葉西総合病院歯科口腔外科初期臨床研修プログラム

2 理念

生命を安心して預けられる病院

健康と生活を守る病院

3 研修プログラムの特色

このプログラムは、千葉西総合病院歯科口腔外科における歯科医師に対する卒後1年間の初期臨床研修プログラムです。

当施設は日本口腔外科学会認定研修施設および日本顎変形症学会認定研修施設として様々な口腔外科疾患、口腔内科疾患および顎変形疾患に対する診断・治療に携わることができます。

当施設は、総合病院口腔外科であり、口腔外科疾患に対する基本的な知識・技能のみならず、周術期口腔機能管理、隣接診療科研修、リハビリテーション実習（ST・PT・OT）など医科歯科連携について幅広く触れ、より広い視点から診療が行える研修歯科医を育成します。

4 臨床研修の目標

歯科医師としての基本的臨床能力を身につけるとともに、患者の人格を尊重した医療を実践するために、医療従事者としてふさわしい倫理観と責任感を養うことを目標とする。

①医療面接、口腔／身体所見より基本的な情報収集ができる。

また患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者・患者家族と良好な関係性を築く。

②収集した患者情報から臨床問題の提示、主要な鑑別疾患、必要な検査の選択、治療方針の立案ができる。

③多職種連携、チーム医療に参加し、歯科医師の果たすべき社会的役割を理解するとともに、円滑な人間関係を構築する。

具体的な到達目標として

「A.歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」

「B.資質・能力」

「C.基本的診療業務」

以上から構成する。

5 研修施設の概要

単独型臨床研修施設 医療法人 徳洲会 千葉西総合病院
所在地 千葉県松戸市金ヶ作107-1
歯科病床数 5床（全病床数：680床）
歯科医師数 6名（指導歯科医：3名）

6 研修期間

1年間

7 研修スケジュール

研修期間中は千葉西総合病院歯科口腔外科において研修を行う。
研修期間は1年とする。
また、状況に応じ学会活動として、
日本口腔外科学会などで学会発表を行う。

8 指導体制

単独型臨床研修施設
医療法人 徳洲会 千葉西総合病院
施設管理者 病院長 三角和雄
プログラム責任者 歯科口腔外科医長 井口直彦
指導歯科医 井口直彦、黒坂正生、中村彬彦

9 研修プログラムの定員及び募集・採用方法

定員 1名
募集期間 6月頃から
採用試験 毎年7月～9月
必要書類 履歴書・身上調書・卒業（見込み）証明書・CBT原本写し
マッチング 有
選考方法 公募にて、面接により選考を行う

10 臨床研修プログラム管理運営体制・指導体制

研修管理委員会は、研修歯科医の全体的な管理、研修状況の評価等を行う。
プログラム責任者は、研修歯科医の目標達成状況を適時把握し、研修歯科医が
研修修了時までには到達目標を達成できるよう調整を行うとともに、研修管理委員会
に目標達成状況を報告する。
指導については、指導歯科医の指導監督の下、上級歯科医による屋根瓦方式を
基本とする。

11 修了の認定

修了判定を行う項目

研修歯科医手帳を配布し、自己評価と指導歯科医評価を記載する。

各自が担当した症例の実績を歯科医師臨床研修レポートに記載し提出、記録として保管する。

修了判定を行う基準

研修管理委員会は、1年間の研修修了時にプログラム責任者から各研修歯科医の目標達成状況について報告を受け、到達目標項目を全て経験すること、研修歯科医に対する評価表の各到達目標の評価がB以上であることを修了判定ラインとする。

研修歯科医の処遇

身分	千葉西総合病院 常勤医師
給与	277,000円
賞与	夏季・冬季各1ヶ月分支給（夏季賞与は在籍期間で按分支給） なお、1年次の1回目は出勤率により支給
その他手当	時間外手当、拘束手当、緊急呼出手術手当
勤務	週5日勤務 平日8時30分～17時00分 ※休憩時間1時間あり 土曜8時30分～12時30分 ※休憩時間0分 時間外勤務あり ※研修内容により勤務曜日の変動が生じます
当直	無
休暇	土曜日午後、日曜、祝日 その他：有給休暇10日間、リフレッシュ休暇4日間 特別休暇（慶弔等）
保険	組合健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険
宿舎	医師宿舎なし 本人名義の賃貸物件や持家の場合は、住宅手当を支給 （但し、50,000円を上限として、家賃の半分を手当として支給）
食事	職員食堂（有料）あり
福利厚生	入院、外来治療費の減免規定あり
健康診断	年2回、ストレスチェック年1回
アルバイトの禁止：歯科医師法第16条の3にて、「臨床研修を受けている歯科医師は、臨床研修に専念し、その資質の向上を図るように努めなければならない」と規定されていることから、研修期間中のアルバイトは禁止	

資料請求先

〒270-2251
千葉県松戸市金ヶ作107-1
医療法人徳洲会 千葉西総合病院
医師人事室宛
TEL 047-384-8111（代）
FAX 047-384-9403
E-mail : drcollection@chibanishi-hp.or.jp

■ 歯科医師臨床研修の到達目標

A. 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、患者への説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な歯科医療提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳と生命の不可侵性を尊重する
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

3. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する

診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮して臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

4. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

5. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

6. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人の役割を理解し、連携を図る。

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

7. 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

8. 科学的探求

医学と医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身につける。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

9. 生涯にわたってともに学ぶ姿勢

医療の質の向上のために常に省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職を教え、共に学ぶ。

③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む。）を把握する。

C.基本的診療業務

（１）基本的診察・検査・診断・診療計画

No.	到達目標	研修内容	症例数
1	患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。	初診時医療面接・再診時医療面接	10症例
2	全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。	口腔内診察、頭頸部診察、各種検査の必要性の判断	5症例
3	診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。	エックス線検査、咬合検査、咀嚼能力検査、歯周組織検査	5症例
4	病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。	担当患者の診断に関する口頭試問	5症例
5	診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。	診療計画に関するカンファレンス参加	5症例
6	必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。	患者への症状説明、インフォームドコンセント、同意書の取得	5症例

（２）基本的臨床技能等

No.	到達目標	研修内容	症例数
1	歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。	口腔衛生状態の評価、予防処置、口腔衛生指導	5症例
2	一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。		

2-a	a.歯の硬組織疾患	充填処置、インレー修復	1症例
2-b	b.歯髓疾患	抜髄・感染根管処置	1症例
2-c	c.歯周病	1)歯周病検査 2)治療計画立案 3)歯周基本治療 4)歯周病安定期管理	5症例
2-d	d.口腔外科疾患	1)局所麻酔 2)拔牙 ※1)、2)を一連の流れで経験したものを1例とする	5症例
2-e	e.歯質と歯の欠損	1)歯冠補綴 2)欠損補綴	1症例
2-f	f.口腔機能の発達不全、口腔機能の低下	咬合・咀嚼・嚥下障害など口腔機能低下症の診断と治療	5症例
3	基本的な応急処置を実践する。	簡単な外傷、出血に対する処置ができる	5症例
4	歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。	1)血圧測定 2)脈拍測定 3)呼吸測定 4)体温測定 各測定項目を全て経験した場合を1症例とする	5症例
5	診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。	指導歯科医の指導の下、各種書類の作成を行う	記録、文書の校閲を受ける
6	医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。	当院医療安全管理講習会に参加する	講習会に2回参加する

(3) 患者管理

No.	行動目標	研修内容	症例数
1	歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。	高血圧および糖尿病で医科診療中の患者に、歯科治療上の問題点と服用薬剤等について説明する	3症例
2	患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。	診療情報提供書により医師等と情報共有を行う	1症例
3	全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。	1)血圧測定 2)脈拍測定 3)呼吸測定 4)体温測定 各測定項目を全て経験した場合を1症例とする	3症例
4	歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。	指導・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導・上級歯科医の指導の下実践する。	1症例
5	入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。	病棟回診への参加し術前術後管理を実践する。病棟カンファレンスに参加する。	3症例

(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

No.	行動目標	研修内容	症例数
1	妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。	患者のライフステージに応じた歯科疾患管理・口腔機能管理を見学・実践する。	5症例
2	各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。	患者の状態を評価した上で、患者の状態に応じた診療を実践する。	5症例
3	障害を有する患者への対応を実践する。	指導歯科医立会いのもと、障害を有する者への歯科診療を経験する	1症例

2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等

本項目は、関連する「B.資質・能力」「6.チーム医療の実践」「7.社会における歯科医療の実践」に相当する具体的到達目標を示す。

(1) 歯科専門職間の連携

① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。

研修内容： 指導歯科医と歯科衛生士の予防処置や口腔衛生管理の臨床を見学する。

症例数： 3症例

② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。

研修内容： 指導歯科医の指導の下、歯科技工指示書を作成する。

症例数： 1症例

③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。

研修内容： 多職種連携による症例カンファレンスに参加する。

症例数： 1症例

(2) 多職種連携、地域医療

① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。

研修内容： 入院患者の退院カンファレンスに参加する。

症例数： 1症例

② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。

研修内容： 入院患者の退院カンファレンスに参加する。

症例数： 1症例

③がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。

研修内容： 周術期口腔機能管理を見学し、外来カンファレンスに参加する。

症例数： 5症例

④歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。

研修内容： 多職種とのカンファレンス・研修会に参加する。

症例数： 1症例

(3) 地域保健

- ① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。

研修内容： 講義・講習会又は文献検索を行う。

症例数： レポート提出

- ② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。

研修内容： 講義・講習会又は文献検索を行う。

症例数： レポート提出

(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

研修内容： 医療法と歯科医療機関の標榜について説明する。

症例数： 口頭試問またはレポート提出

- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。

研修内容： 厚生局が開催する保険医初任者講習会に参加する。
上級歯科医師の指導の下に保険診療を実践する。

症例数： 10症例

- ③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

研修内容： 介護保険制度について説明する。

症例数： 口頭試問またはレポート提出

症例レポートの記載ガイドライン

手書きのレポートでも可能ですが、できるだけワードプロセッサで作成して下さい。
添付のA4の大きさの紙面に凡例の書式に従って作成して下さい。

- 1) 正しく記載されていればレポートは2ページ以上の長さになります。（注意：外来のみの症例は「外来病歴」の書き方に沿って、診断と治療経過を記載し、外来手術を行った症例は外来手術記録も添付し、考察欄には疾患と症状・病態の発症機序に重点を置き、また診断に至る根拠、処置法の選択について記載してください。入院症例は「入院病歴」の書き方に沿って、診断と治療経過を記載し、手術を行った症例は手術記録も添付し、考察欄には疾患と症状・病態の発症機序に重点を置き、また診断に至る根拠、処置法の選択について記載してください）
- 2) 略語の使用については十分理解可能なものについてのみ使用すること。
- 3) レポートは標準的な日本語を使用して記載すること（英語でも可）。
- 4) 正しく作成された図表を用いてもよい。
- 5) レポートは必ず指導歯科医、指導責任者に提示し、所定欄に署名をもらうこと。

千葉西総合病院 歯科医師臨床研修レポート（様式）

研修歯科医 氏名 _____

診療科名： _____

患者名（イニシャル） _____ 年齢 _____ 歳 _____ 男・女 _____ ID番号： _____

入院日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

退院日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

居住地： _____

受持期間：自 _____ 年 _____ 月 _____ 日

外来初診日： _____

_____ 至 _____ 年 _____ 月 _____ 日

処置区分： ☐ 外来 ☐ 入院

転帰 ☐ 治癒 ☐ 軽快 ☐ 転科（手術 有・無） ☐ 不変 ☐ 死亡（剖検 有・無）

フォローアップ ☐ 当院外来 ☐ 他院へ依頼 ☐ 転院

診断

1. 経験すべき症状・病態・疾患

1)

2)

2. 経験が求められる疾患・病態

1)

2)

(A) 外来病歴

(主訴)

(既往歴)

(家族歴)

(現病歴)

(初診時現症)

(検査所見)

(初診後の外来通院経過)

考察

(B) 入院病歴

(主訴)

(既往歴)

(家族歴)

(現病歴)

(入院時現症)

(検査所見)

(入院後の経過)

考察

指導歯科医

病院名

氏名

印

指導責任者

病院名

氏名

印

■研修歯科医に対する評価表

病 院 名 _____

診療科名 _____

研修歯科医氏名 _____ 印

指導歯科医氏名 _____ 印

上記診療科での研修期間 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ～ _____ 年 _____ 月 _____ 日

評価方法は以下の3段階評価とする

a＝優れている b＝普通 c＝努力が必要

1、臨床知識と技能

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1) 基本的知識の修得 | a - b - c |
| 2) 診断、治療、診療記録技能の修得 | a - b - c |
| 3) 問題対応能力 | a - b - c |
| 4) 安全管理能力 | a - b - c |
| 5) 保険診療や医療法の理解 | a - b - c |

2、研修に対する姿勢

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1) 勤務態度（時間、身だしなみ） | a - b - c |
| 2) 積極性、自主性 | a - b - c |
| 3) 対人関係、態度（患者、家族） | a - b - c |
| 4) 対人関係、態度（医療チーム） | a - b - c |
| 5) 自己学習 | a - b - c |

- | | |
|--------|-----------|
| 3、総合評価 | a - b - c |
|--------|-----------|

研修歯科医に対する意見（必ず記載してください）

